

# 第74回大会 TEAM FUKUOKA NEWS

 福岡県選手団サポートニュース R1.9.13 Vol.2

## 河川での初開催！苦戦を強いられたオープンウォーター

水泳競技 [オープンウォータースイミング] が潮来市特設オープンウォータースイミング会場で行われた。昨年度までのコースは海であったが、今年は初めての河川（北利根川）開催。男女共に5kmの距離を、下流から上流に向かい、流れに逆らって泳ぐため、独特な川の流れを受け、ほとんどの選手が苦戦を強いられた。そんな中、鹿島理子選手（宗像高校）は、高校生ながら14位と健闘した。昨年の順位が20位だったことを考えると、大きな成長である。鹿島選手は「海の潮の流れより、川の方が泳ぎやすく、順位を上げることができた」とコメント。中村監督は、「来年は大学へ進学する。競技を続け、さらに飛躍してもらいたい」と来年行われる鹿児島での国体に期待を込めた。



鹿島選手

## 最年少の2人！茨城での経験を来年に繋げる

笠松運動公園屋内水泳プール（ひたちなか市）で行われた水泳競技 [アーティスティックスイミング少年女子] で、出場選手の中でも最年少の中学生ペアが精一杯の演技を魅せた。久喜由美子選手（福岡市立高取中学校）、稻員あかり選手（福岡雙葉中学校）の2人だ。テクニカルルーティンでは国体初出場ということもあり、緊張から思うような演技ができず15位。しかし、フリールーティンでは、「悔いを残さないよう、思い切り演じる」と気持ちを切り替え、全てを出し切った。最終的な総合成績は20チーム中13位であったが、竹本監督は「中学生ながら、少ない練習時間の中で良く頑張った」とコメント。来年は高校に進学する二人。今年の結果を胸に、大きく成長した二人が活躍する姿に期待したい。



久喜・稻員選手

## 体操競技少年男子 最高の演技で決勝進出に大手！



体操競技（少年男子）メンバー

体操競技[予選]が日立市池の川桜アリーナで行われた。少年男女共に29チームで予選を行い、上位18チームが決勝戦に進出する。少年男子は田口選手、最上選手、前野選手、清野選手（自由ヶ丘高校）、本山選手（九州国際大学付属高校）が出場。力強くダイナミックな離れ技などで素晴らしい演技をみせた。演技が終わるたびに、選手同士で声を掛け合う姿からもチームワークの良さがうかがえる。12日（木）終了時点で、17チーム中の8位。松浦監督は「予選突破は間違いない。8位入賞も狙えるチームだ。」と期待を膨らませる。選手達はすでに決勝で戦うイメージをしていることに違いない。また、少年女子は白石選手（福岡中央高校）、内海選手（東筑紫学園高校）、田中選手（自由ヶ丘高校）に加え、中学生の小野選手、山田選手（共に北九州市立板櫃中学校）が出場。元気ハツラツな演技で会場を魅了した。13日（金）予選が行われる残り15チームの結果で決勝の進退が決定する。是非とも少年男女で決勝進出を果たし、茨城の地で梅の花を開花させてほしい。



体操競技（少年女子）メンバー